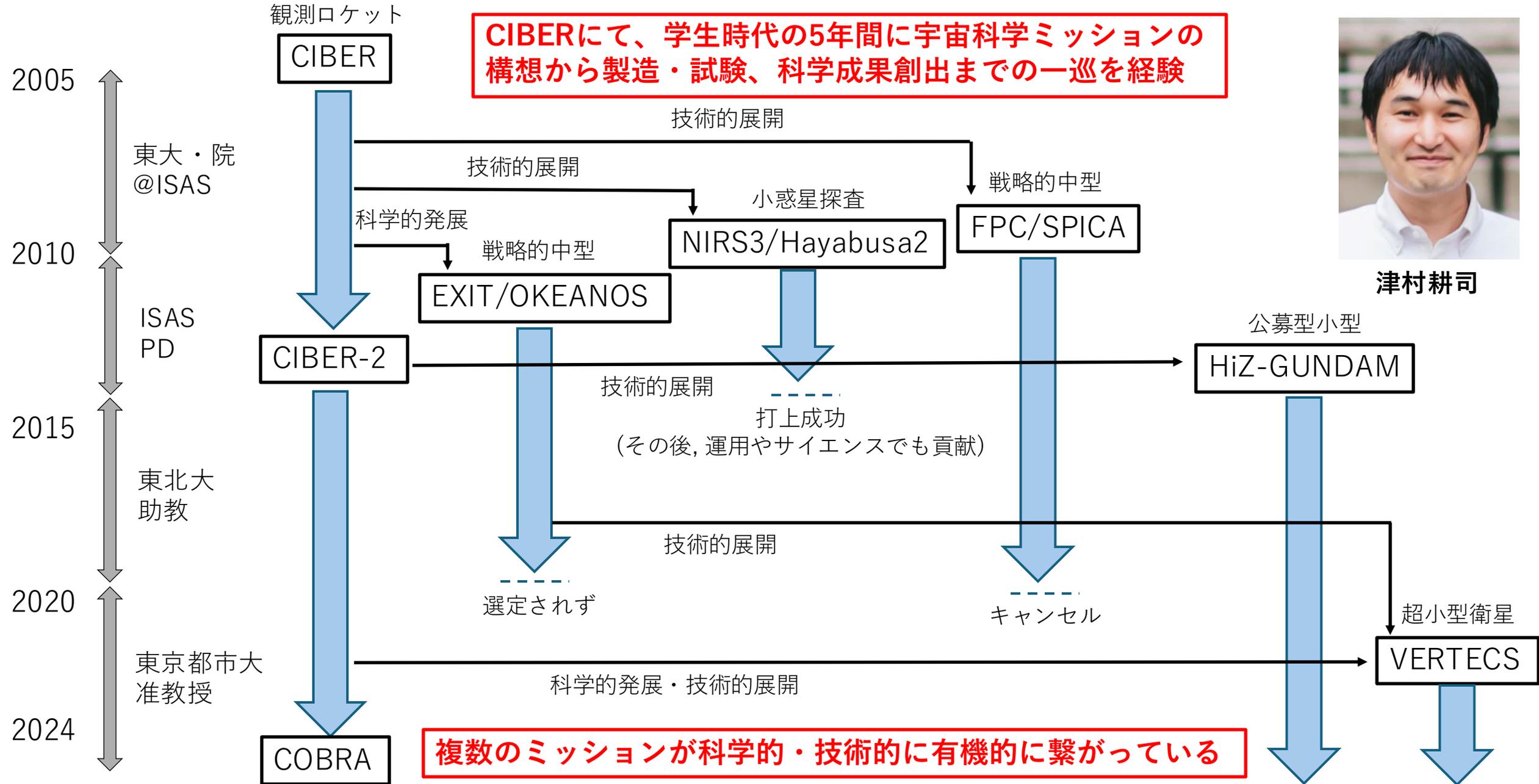


(自己紹介を兼ねて)今まで関わってきたスペースプロジェクト



開発系の研究者育成についての問題意識と提案

- **人材育成を目的とした**超小型衛星プロジェクトをJAXA宇宙研(+大学連合・天文台?)で**定常的に**回していけないか
 - 3年間で3億円規模、これが1つ以上常に走っている状況を作る
 - 複数の大学から学生が参加できる体制がよい。PIは若手PDクラス
 - 大学の学生教育のみならず、JAXAの新入社員教育にも活用できるのでは？
 - いずれはJAXAの大型ミッションのPI候補に
 - **科学成果を求めない**(ただし何らかのミッションを課す)
 - 系外惑星のトランジットを~~の精度で~~天体以上観測する、コンポーネントの宇宙実証、など
 - 評価基準はミッションの達成度に加え、D論の本数など人材育成的な観点を盛り込む
 - 定常運用されれば、OISTERのように科学成果も期待できる？
 - 小型のミッションを**短いタイムスケールで継続的に回す**ことが重要
 - 本来は公募型小型がその役割を担うはずだったのではなかったか？
- 宇宙研(天文台も?)に**プロジェクト横断的に技術相談**できるポストを設置
 - 現在は各プロジェクトが独立に企業と契約して技術課題の検討を進めている
 - 光学、熱、構造、電気、情報処理・・・
 - 各検討に数十万～数百万くらい。それを各プロジェクトが独立に支払っている
 - 宇宙研で[光学・熱・構造・電気・・・]の専門家を年棒1000万円で雇っても全体としてはお得(?)
 - (上記の人材育成衛星で育成した)技術系の学生の受け皿(というか目標)となりうる
 - すばる望遠鏡におけるサポートアストロノマーに近いイメージ？